

これまでも、これからも

ふるさとにできることを

NO.

07

花桃の郷管理組合

会長 眞下均さん (中)
副会長 眞下大生さん (右)
副会長 神田奨さん (左)

上ノ貝戸地区(大内沢)はかつて耕作放棄地が問題視されており、これを解消するため同地区内の各農家が協力する形で上ノ貝戸集落協定が結ばれました。

そこから、集落全体で耕作放棄地の解消に取り組むとともに、花桃などの花きを植栽し、現在の花桃の郷が生まれました。

花桃が咲かせた地域の絆

耕作放棄地に花桃等を植えて始めて25年。今では約3200本もの花桃等が春を彩り、訪れる人々を楽しませています。

花桃の郷管理組合では、花き研究会や技術者の協力を得て生産・出荷を行います。「荒れていた耕地の草刈りや整地は本当に大変だったよ。」
今も花桃を守るため、草刈りや枝の手入れを欠かしません。訪れる方々からの協力金は苗木の購入や観光トイレ整備などに活用し、地域観光の充実にも力を注いでいます。

減りゆく担い手と続ける覚悟

過疎化が進む中、世代交代の難しさは深刻です。花桃の郷管理組合でも「10年後も続けられるのか」という不安があります。若者が仕事や進学で村を離れ、次の担い手が少なくなる一方で、手入れを怠れば草が伸び、猪や鹿の被害が起きる。辞めるのは簡単ですが、「続けること」が何よりも難しく、そして大切です。それでも、美しい花桃の郷を支え

る人々がいるからこそ、この景色は今も息づいています。「花桃の郷を訪れるのは3回目です。ここへ来ると落ち着きます。」という来訪者の言葉が、私たちの励み。守り続けてきたふるさとの風景を、これからも未来へつなげていきます。

花桃の未来へ

花桃の郷を次世代へつなぐため、若い世代も参加しやすい活動づくりを進めています。作業効率化のため、ドローンによる農薬散布など新しい試みも検討中です。高齢化が進む中、無理なく続けられる形を模索しながら、共同作業を通じた交流や絆を大切にしています。みんなが集い、心を寄せ合える場所こそ、活動を支える「希望の芽」です。

咲かせたい、ふるさとの笑顔

「ふるさとに恩返しをしたい」「地域を盛り上げたい」「そんな想いが、私たちの原動力です。花桃を楽しみに訪れる人々の笑顔や「きれいだね」「また来たい」という言葉が、何よりの喜び。これからも花桃の郷を守り、ふるさとの魅力を発信し続けていきます。



1



2



3

1_ 村の春がやってきた - 色鮮やかな花桃の郷
2・3_ 草を刈って、花桃等を植える - 耕作放棄地の解消活動時の様子